

在宅パソコン講習で、パソコン技術をいち早く取得。 多様性を活かした職域で11年目にチャレンジ。



在宅雇用の経緯

子どもの頃に筋ジストロフィーを発症した吉川誠一さんは、一般企業に就職するものの、病気の進行によりやむなく退職。将来の在宅での勤務に役立てばと、障害のある方への支援を行う、社会福祉法人東京コロニーが主催する重度障害者在宅パソコン講習（現：IT 技術者在宅養成講座）受講を決意。パソコン技術を取得した後は、障害者 SOHO*の先駆けとして活躍しました。

SOHO で活動する一方で、特定の事業所に就職したいという思いがあり、平成 9 年に東京コロニーの支援により TBS での勤務が実現。当時は番組内容に対する視聴者の目が厳しくなりはじめた頃であり、制作者側の視点ではなく、視聴者側の視点で番組をチェックしてもらう必要がありました。そこで吉川さんの業務内容を、番組に対する意見や感想を取りまとめる「番組モニターマネジメント」とすることにしました。提出されたレポートの中には、障害のある方の視線で見た貴重なコメントが含まれ、番組作りに活かされています。

モニターの募集からレポート提出まで、すべて吉川さんの裁量に任せる一方、体調や福祉サービスにあわせての短時間勤務や、通院やガイドヘルプのために勤務日を振り替えるなど体への負担を少なくする工夫をし、現在まで 11 年間雇用が継続しています。

* SOHO：Small Office / Home Office の略称で、自宅や小規模オフィスでパソコンやインターネットを使い仕事をするスタイルのこと

Profile

支援団体

社会福祉法人 東京コロニー

- 所在地：東京都中野区江原町 2-6-7
- ☎ 03 (5988) 7192 (職能開発室)
- FAX 03 (5988) 7193
- URL：http://www.tocolo.or.jp/index.html
- 在宅就業支援の利用者（現在の継続利用者）：36 名（うち重度障害者 32 名）
- (内訳) 身体障害者 …………… 34 名
- 精神障害者 …………… 1 名
- その他 …………… 1 名

昭和 26 年の設立以来、障害のある人の「完全参加と平等」を実現するため、福祉工場や授産施設、各種障害福祉サービス事業等の運営を行っている。昭和 57 年には情報処理部門を設立し、コンピュータ処理技術訓練とその後の就業事業を行うなど、いち早く IT 事業にも取り組む。平成元年より在宅就業支援を開始し、インターネットを利用した IT 技術者在宅養成講座、職業紹介事業、SOHO 支援事業を実施している。平成 18 年 5 月に在宅就業支援団体に登録。

企業

株式会社 東京放送 (TBS)

- 所在地：東京都港区赤坂 5 丁目 3-6
- ☎ 03 (3746) 1111 (代)
- URL：http://www.tbs.co.jp/
- 業種：放送業
- 事業内容：放送法による一般放送事業（テレビ・ラジオの放送）及びその他放送事業、放送番組制作・ビデオソフト等販売、情報通信サービスの提供ほか

■ 従業員数 1,138 名
うち障害者の雇用者数 …………… 11 名
うち障害者の在宅雇用者数 …………… 6 名

1951 年の創立以来、テレビ・ラジオなどで各種番組を提供。近年、番組の内容について視聴者側の視点で様々な角度からチェックしてもらう必要が出てきたため、番組に対する意見や感想を取りまとめてレポートする「番組モニターマネジメント」業務を委託できる人材を探していた。

在宅雇用者

吉川 誠一さん

- 在住地：東京都在住
- 障害種別：身体障害（1 級）
- 障害状況：筋ジストロフィー。感音性難聴。電動車椅子、トラックボールを使用。生活はほぼ全介助が必要で、家族やヘルパーの介助を受けている。

子どもの頃に発症。高校卒業後は職業訓練校で写植を取得し一般企業に 5 年勤務するが、病気の進行により通勤が困難になり退社。平成元年から 3 年間、東京コロニーの重度身体障害者在宅パソコン講習を受け、修了後は地域の社会福祉協議会主催のパソコン講習の講師を務めたり、福祉情報の発信サイトの立ち上げや、ネットワークを活用した働くグループの構築など、障害者 SOHO の先駆けとして活躍した。現在もネット上で多くの仲間と多彩な交流を持つ。

支援団体

社会福祉法人
東京コロニー

支援内容紹介

普及が始まったばかりのパソコン技術講座をいち早く開設。企業への在宅雇用の提案・サポートにも力を入れる。



IT 事業本部 職能開発室
課長・社会福祉士
堀込 真理子さん

社会福祉法人 東京コロニー

株式会社 東京放送 (TBS)

在宅雇用者 吉川 誠一さん / まとめ

パソコン技術取得の実現により 在宅雇用希望者の職域を広げる

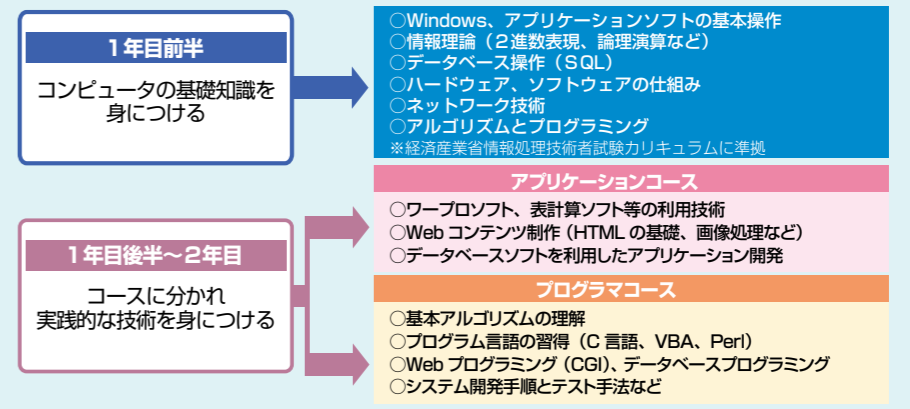
東京コロニーでは東京都の補助事業として、平成元年から重度障害者在宅パソコン講習（現：IT 技術者在宅養成講座）を開催しています。当時 25 歳の吉川さんは、高校卒業後に職業訓練校で写植技術を取得し、5 年間会社勤めをするものの、病気の進行により退社。在宅での勤務も考えましたが実現できず、新たな技術を習得したいとの思いから、一般家庭での普及が進みはじめてばかりのパソコン技術習得を決意し、第 1 期生として受講しました。

「この講習は、働きたいという意欲があっても、重度障害のため、きちんとした技術を身につける機会が得られない方を対象に、自宅にいながら就労に必要な情報技術を学んでいただくためのものです。もう 20 年続いているんですよ」と堀込さん。吉川さんに対しては、3 年間（現在の講座は 2 年間）情報処理の技術を指導しました。「理論的な学習が多いのは、目先の技術だけでなく、仕事人として長いスパンで通用する底力をつけてもらうため」と堀込さんは続けます。

◆ IT 技術者在宅養成講座カリキュラム

講習期間 / 2 年間（東京都内在住の方対象）

1 日 4～6 時間、週 4 日以上の学習時間を各自で確保 ※ 夏期・春期・冬季休暇あり



在宅で情報処理技術を学ぶ、IT 技術者
在宅養成講座を開講しています。



一人ひとりの能力とニーズに合わせた
仕事を紹介し、障害のある方の就業を
支援しています。



Web、データベース、プログラミング、
DTP など、SOHO の活躍の場をサポート
しています。

社会福祉法人 東京コロニー

株式会社 東京放送 (TBS)

在宅雇用者 吉川 誠一さん / まとめ

社会福祉法人 東京コロニー

株式会社 東京放送 (TBS)

在宅雇用者 吉川 誠一さん / まとめ

企業

株式会社 東京放送 (TBS)

支援を受けて

障害者雇用は多様な活用の一環。障害を持つ方々の意見が様々な番組作りに反映できるから、活躍の場はますます広がっていく。



人事労政局 人事部 担当部長 竹原 宏紀さん

※ SNS : ソーシャル・ネットワーキング・サービス。人と人のつながりを促進・サポートするコミュニティ型の Web サイト

働く人の裁量に任せられるよう業務内容を工夫し、柔軟な勤務形態を実現

「番組モニターマネジメント」とは、番組に対する意見・感想をまとめ、レポートするものです。吉川さんが障害のある方同士のネットワークを活かしてまとめたレポートの中には、障害のある方の視点で見た貴重なコメントが含まれ、番組作りに活かされています。

業務進行は吉川さんの裁量に任せられるよう工夫し、モニター募集から連絡まで、自身の作成サイトを利用することで吉川さん主導のペースでできるよう考えました。就業時間も5時間(現在は6時間)の短時間勤務とし、日々の進捗は、作業開始時間と終了時間をメールで報告することで管理しています。平日に訪問サービス



◀モニターから集められた意見などは、月一回レポートにまとめて本社に提出します。

やりハビリが入った際には、時間帯の変更や土日に振替も可能としています。雇用にあたって技術的な訓練は特にしませんでした。メール等のやりとりの中でのモニターへの対応や、サイトへの記載の仕方などを指示しました。

メディアの多様化、番組の質の変化に伴い職域も広がる

在宅雇用はもとより、重度障害を持つ方を受け入れるのも初めてだったため、実際に職域が決定した後も、この方法で在宅雇用がうまくいくのかなど不安もありました。雇用当初の3カ月は東京コロニーと「障害者雇用定着アドバイザー」契約を結んでいたのですが、もしも問題が発生しても相談できるしくみがあったのが心強かったです(その後、11年間協力体制は継続)。

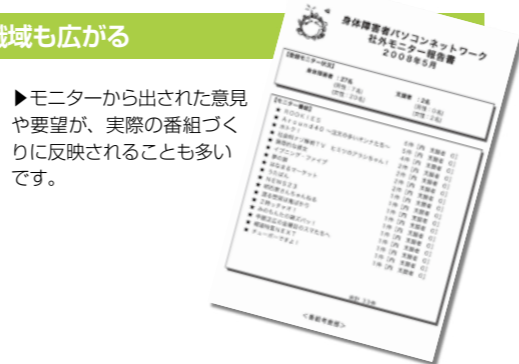
集められた意見を、自分で確認・精査してからレポートしてくれる吉川さんの仕事ぶりへは社内でも評価が高く、番組制作の上でも障害のある方の視点に配慮するものが増えていきました。

現在当社では「障害者雇用は“多様性”の活用の一環」と位置づけられており、吉川さん以外にも5人の重度障害者(脳性麻痺2人、心臓機能障害2人、髄膜炎1人)が在宅で勤務し、ラジオ・地上波放送・衛星放送に関するレポート、番組調査報告、データ放送・モバイルに関わるコンテンツ作成、モバイル・ワンセグ向けのデータコンテンツ作成・編集などに携わっています。今後は本格化する地上デジタル放送や、社内 SNS*等の環境整備により、更なる職種の拡大が期待されています。

Work contents

吉川さんの業務内容

- 自身の知己やメールリストなどで、TBSの番組モニターを募集
- 番組モニターマネジメント用のサイトを作成・運営
- 各モニターからあがってくる意見・感想に目を通し、優先度を精査した上で、週に一度レポートを作成
- 月末に意見を出したモニター名簿の提出。意見・感想のダイジェストはサイトに載せ、モニターへ報告



▶モニターから出された意見や要望が、実際の番組づくりに反映されることも多いです。

吉川さんの雇用状況	
雇用形態	嘱託社員 (1年更新)
勤務時間	6時間/日 (30時間/週) ※必要に応じて出社あり。勤怠管理は作業開始時間と終了時間をメールで報告
賃金	月給制 賞与あり ※福利厚生費、通信費等は別途支給
福利厚生	健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険加入、退職金あり
設置機器	WindowsPC、プリンタ、FAX、インターネット環境、電話、TV、HDDレコーダー、字幕放送受信機(アナログ放送)
購入、設置費用	約20万円 (WindowsPC、HDDレコーダー、字幕放送受信機(アナログ放送))
メンテナンス	ネットやPCの不具合は会社で整備
消耗品の購入	必要に応じて会社で支給
雇用にあたり活用した制度	特になし ※東京コロニーとの間に「障害者雇用定着アドバイザー」契約を独自に締結(雇用開始後3カ月間)

在宅雇用者 Interview

番組審査部 吉川 誠一さん



パソコン技術の取得と SOHO 活動の積み重ねが、新しい仕事を始める意欲につながりました。

在宅で仕事の可能性を求めてパソコン技術の取得を決意しましたが、自分にできるのかととても不安でした。悩むより、まずはやってみようと思った勉強でしたが、情報処理技術だけでなく、修了後はネット管理、PC講座やイベントの協力、ワープロやサイトの作成のほか、社会人としてのビジネスマナーも学びました。

就業にあたっては、在宅雇用の心得などの研修を受けたほか、実際に採用が決まってからは、サイト作成のフォロー (HTMLの技術的な支援)

やモニター集めへの協力、メンタル面でのフォローがあったのがとても助かりました。

仕事面では賃金や福利厚生もしっかりしているし、なにより体調や予定に合わせて、自分のペースで自由に仕事ができるのがよかったです。11年間、特に問題もなく仕事を続けてこられたのは、TBS社内の障害をもつ人に対する理解と協力があったからだと思います。これからも、体力の許す限り続けていければと思います。

支援関係早見表

関係者	株式会社 東京放送 (TBS)	他の支援団体	社会福祉法人 東京コロニー	吉川さん
時期				
就職・雇用ニーズ	・番組内容の質の変化により、障害のある方の目線からの意見を必要としていた			・病気の進行により退社したが、在宅での勤務を希望していた
就職前	トレーニング期		講習受講を奨励 重度障害者在宅パソコン講習	相談 退職後、在宅就労を希望 講習受講 プログラミング
	就職準備期	在宅雇用を検討 ・業務を番組モニターマネジメントに決定	[ハローワーク] 東京コロニーを紹介	請負をサポート SOHO活動 ・受注した仕事を着実にこなし、信頼度を高めていった 個人活動 ・パソコン通信ネットの管理 ・地域の福祉イベントへの協力 ・ホームページ作成
採用決定				
就職後	初期段階	採用	障害者雇用定着アドバイザー契約 フォロー ・番組モニターマネジメントのサイトの作成のフォロー ・モニター集め協力 ・精神面のフォロー	就職
	現在	在宅雇用の拡大 ・6名に増加	フォロー ・マシン、作業環境整備 ・在宅雇用継続に必要な助言	継続雇用 ・11年間勤務

まとめ

この事例におけるポイントと評価

11年という間に人事担当者は数回変わっているが、在宅雇用に関するTBSの姿勢は“多様な働き方の創出”で一貫している。その視点を中心に、ご本人の適性に目を向け、事業主と支援団体とが連携して職域を創出した点がこの事例のポイントと言える。「口の動きで発言を読み取る」とする聴覚障害者にとって、キャスターの顔の向きは重要である」と指摘したモニターの意見が、番組作りに反映された。吉川さんの仕事ぶりは的確に評価され、現在では在宅雇用者が6名に拡大され多様な業務についている。

今後の目標

在宅雇用においては、ホームページ制作やCADを使用した製図など、一定の技術をベースにした仕事の割合が多い。しかし、特別な技術がない方にとっても、本事例のように高いコミュニケーションスキルや交渉力などを武器に、ITを活用した職域を創出することは大切である。求職者と企業の要望を合致させながら、在宅雇用で行う作業の幅を広げ、重層的な職域作りを目指していきたい。